

第1回鳥取まいぶん講座

2021年4月17日

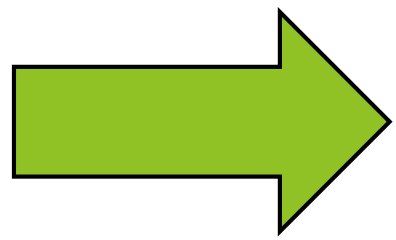
いにしえの田園風景 (春)

鳥取県埋蔵文化財センター 下江健太

お米作りの開始 = 弥生時代の開始

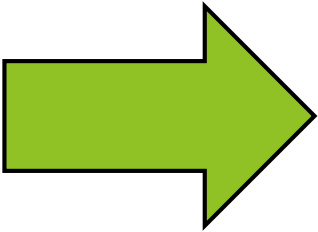
※早期 = 約3,000年前 (北部九州のみ)

前期 = 約2,500年前 (西日本全域)



日本列島で本格的にお米作りが行われたのは、弥生前期から

大宝律令（701年）以降、米は租（そ）
と呼ばれる税の中心に。

 日本人の主食として、政治経済や
文化と深い結びつきがある。

田園風景は、今も昔も日本人の
日々の生活に溶け込んでいる。



田植え

代掻き
(しろかき)





稲刈り

藁干し





木製鋤による田起こし

図提供：鳥取県立むきばんだ史跡公園

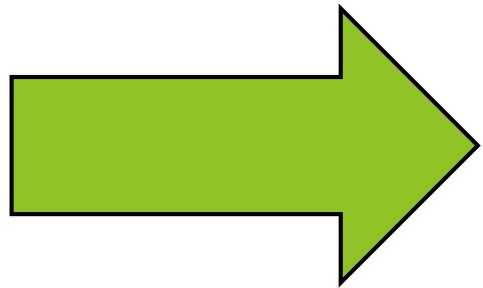
石包丁による稲刈り



田を起こす

田起こし

春に水田の土を耕し、土をやわらかくすることで、稲がしっかりと根付きやすくなる。



現 代：トラクター

弥生時代：木製農耕具

(一部金属化)

鍬（くわ）と鋤（すき）



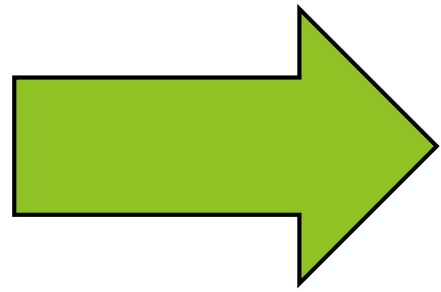
本高弓ノ木遺跡出土鍬先
（弥生時代前期
約2500年前）
※山陰最古級の農具



本高弓ノ木遺跡出土鋤
（古墳時代前期
約1700年前）
※一木造

代掻き（しろかき）

水田に水を入れ、田起こしした土を攪拌して均質にします。



現代：トラクター
弥生時代：木製農耕具
(又鋤など)

又鍬



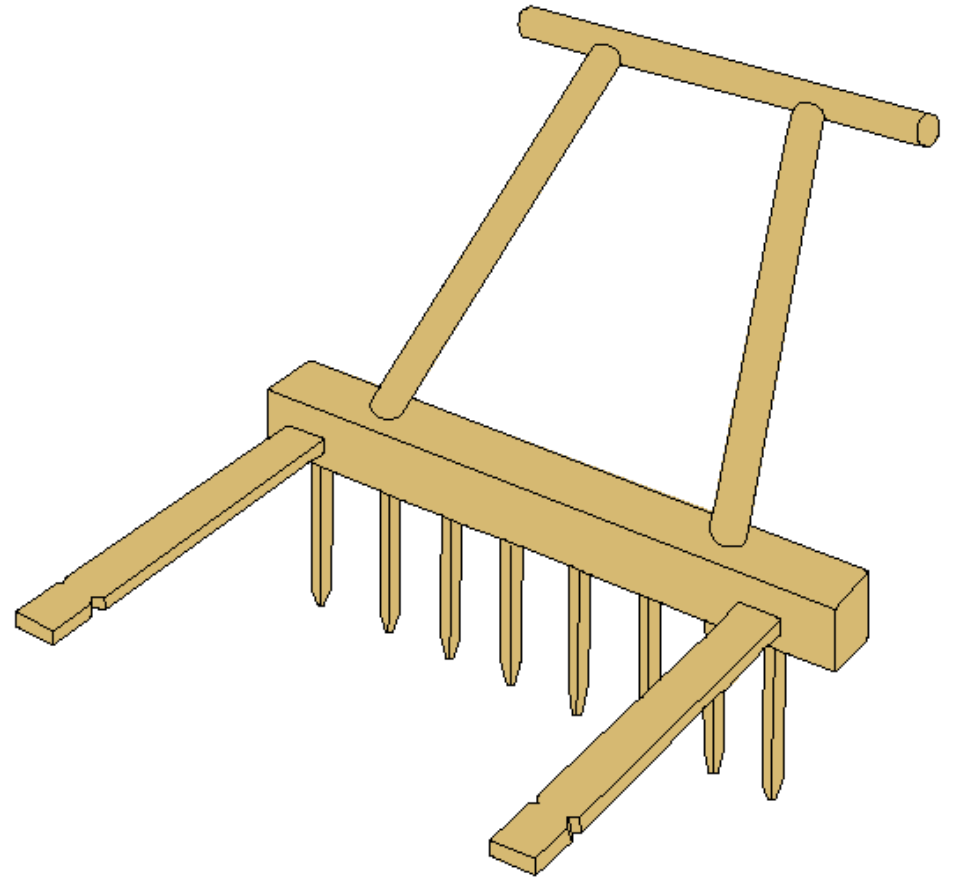
青谷上寺地遺跡出土
(弥生時代後期 約1900年前)

代掻具



高住平田遺跡出土
(古墳時代後期 約1500年前)
※人力によるものか

馬鍬（齒部分）



青谷横木遺跡出土
（平安時代 約1100年前）

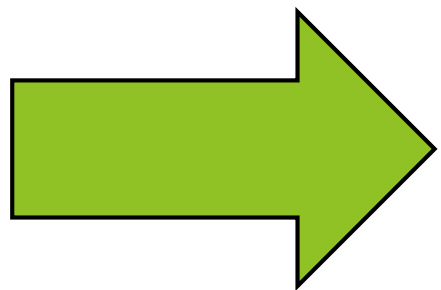
農具のつくり方

様々な農具

- ・ 主要なものは鋤・鋤
- ・ 素材はカシ（アカガシ亜属） やコナラ
= 硬質の樹種を選択
- ・ 弥生時代後期（約1900年前）以降、刃
先のみ鉄器化

農具（鋤先）のつくり方

- ・丸太にクサビを打ち込んで、放射状に分割して、素材となる板（ミカン割材）を数多く製作。
- ・ミカン割材から農具を製作。鋤先は2～4つ連続して製作。



木の特性を把握し、限られた資源を効率的に利用。



松原田中遺跡出土鋤未成品（三連作）
弥生時代前期末（約2300年前）
※**県内唯一**の「連作未成品」

田起こし・代掻きの工夫

泥除けについて

- 鋤の身や柄にはめ込んで使用。
 - 耕作者が泥の飛散で汚れるのを防ぐ。
- ※初めてみつかったのは1937年の唐古
- 鍵遺跡（奈良県）の発掘調査。
- 「陣笠状木器」や「丸鋤」と呼称。
- 機能が分かったのは約50年後。

泥除け（鋤身とセツト）

良田中道遺跡出土
（古墳時代前期 約1700年前）

約1700年前



左：鋤身
右：泥除け



鉄製の刃先について

- 鍬や鋤の先に鉄の刃をはめ込んで使用。
- 弥生時代後期（約1900年前）頃から鉄板を折り曲げてはめ込む**方形刃先**を使用。

➡ 主に西日本で使用。

- 古墳時代中期（約1600年前）には、朝鮮半島からの影響で**U字形刃先**が登場。

➡ 全国へ普及。

方形刃先



本高19号墳出土
(古墳時代前期 約1700年前)

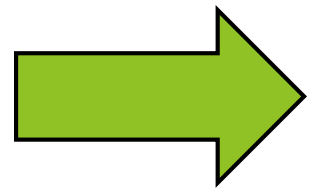
U字形刃先



青谷横木遺跡出土
(平安時代 約1100年前)

牛馬耕について

- ・古墳時代中期（約1600年前）以降、朝鮮半島から牛や馬がもたらされ普及。
- ・同時に馬鍬や犁といった牛馬耕の道具ももたらされる。



荒地の開墾や大規模な開発に大きな力となる。

田に入る

田下駄の使用

- 木の板に穴を開けたり、側面に抉りをいれて、紐を通して、足に固定。
- 弥生時代後期（約1900年前）以降は抉りをいれたものが主流。
- 古墳時代前期（約1700年前）になると、部材を組み合わせた立体的なものも出現。

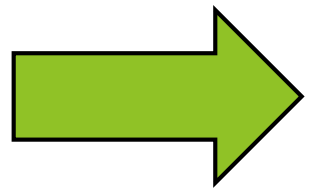
高足 (たかあし) 型田下駄



青谷横木遺跡出土
(平安時代 約1100年前)

大足について

- 部材を組み合わせて作った大型の田下駄の一種。
- 田植え前の水田に入って、稲藁や草などを踏み込む役割。



土を細かく砕き、肥料としての稲藁や草を地中に押し込む。

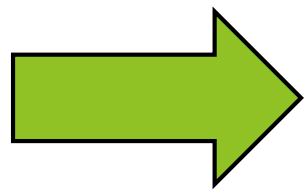
大足



松原田中遺跡出土
(平安時代?)

水田跡について

- 畔（あぜ）に囲まれた水田そのものが見つかる事がある。
- 畔だけでなく、水を引き入れる水路や堰（せき）、水口（みなくち）などがある。



当時の田園風景が復元される。
（土地利用法、水利システム）

桂見鍋山遺跡水田面（古墳時代前期 約1700年前）



桂見鍋山遺跡水口（古墳時代前期 約1700年前）



本高弓ノ木遺跡堰（弥生時代前期 約2500年前）

※県内最古の堰？



正面から

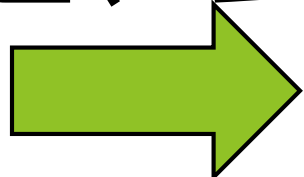


側面から

畝跡について

- ・ 畝（うね）が残っている場合がある。

(例) 長瀬高浜遺跡

- ・ 地表より約 5 m 下の砂地に古代から中世（約1200～600年前）の畝の跡が、4500m²以上の範囲で発見。
- ・ 理化学的分析の結果、陸稲（おかぼ）やキビ、ムギを栽培？
- ・ 牛の足跡  牛馬耕の可能性

長瀬高浜遺跡畠跡 (古代～中世 約1200～600年前)



35 牛の足跡

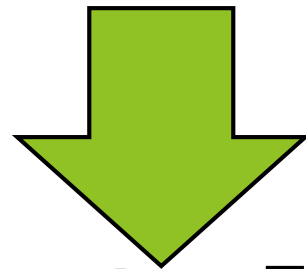
田植えの風景

田植えからみるジェンダー

ジェンダーとは？

生物学的性差ではなく、社会的、文化的に分けられた性差のこと。

(例) 女のシゴト、男のシゴト...



青谷横木遺跡出土「田植木簡」に古代のジェンダーに関する重要な記載が!!

青谷横木遺跡出土「田植木簡」 (平安時代 約1100年前)



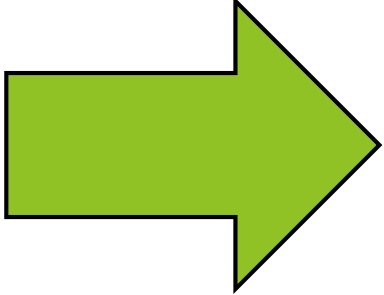
殖女八人
 西殿三人 德谷一人 今位三人
 即一人
 男三人
 少子一人
 今位宅歸路師
 男四人 少子一人
 〔×大〕
 已上十七人
 少子二人 大十五人
 預一人
 目代二人

9世紀半ば：荒田目条里遺跡（福島県）
出土木簡
...田植えの人員36名中女性は3名

9世紀末～
10世紀初頭：古志田東遺跡（山形県）出土木簡
...田植えの人員68名中女性は51名

10世紀後半：青谷横木遺跡（鳥取県）出土木簡
...田植えの人員12名中³⁹「殖女八人」

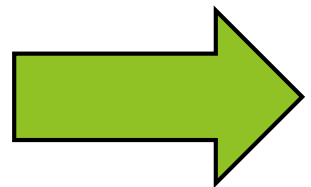
9世紀後半以降、田植えにおける女性の割合が高くなる。



その理由については不明だが、後に「早乙女」と言われる儀式に繋がっていくと思われ、田植え = 女性の仕事というイメージは**歴史的に形成された。**

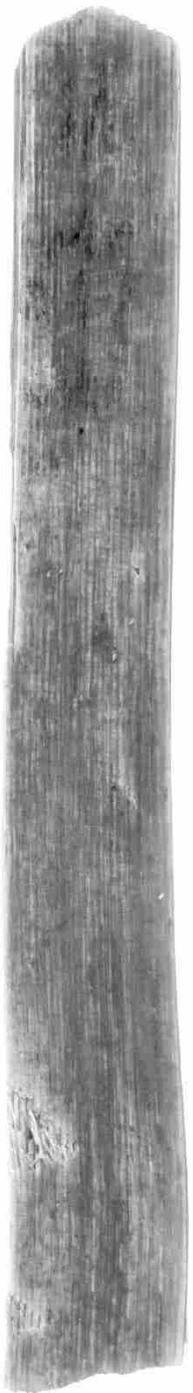
種子札（たねふだ） 木簡

- ・ 米の品種を記したと思われる木簡。
- ・ 青谷横木遺跡（平安時代 約1100年前）で、「須留女（するめ）」、「長比子（ながひこ）」と記した木簡出土。



全国で同じ出土例あり。

青谷横木遺跡出土45号木簡



「須留女」

青谷横木遺跡出土58号木簡



「長比子」



種子札（たねふだ） 木簡の分布

